

谷口 博さん（岡山県岡山市東区出身）  
2015年度2次隊 シニア海外ボランティア  
派遣国：スリランカ 職種：養蜂  
2016年12月18日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

## ミツバチ育て蜂蜜採取

ミツバチを見ていると、朝から晩までひたすらに働いている。働き蜂はたった40日ぐらいしか生きないが、その生き抜く姿は心を和ませる。生き方の選択肢を与えられ、思い悩むのは人間だけなのだろうか。

私は今、スリランカの標高1200mぐらいの山中にある政府の唯一の養蜂機関で国際協力機構（JICA）のボランティアとして活動している。目指すところはもちろんスリランカの養蜂業界の発展である。

人はミツバチから様々な恵みを頂いている。そのお返しに何を差し上げるのかを考える。夏は日陰を作り、冬は日当たりを良くしてあげる。住居に関しては、ミツバチは新築よりも古民家を好むようなので、自然に即した古風な住居を建て、定期的に掃除する。蜂蜜を取り上げると、ミツバチは生きていけないので、シーズンオフには蜂蜜の代わりに砂糖水などを与えて群れを存命させる。

養蜂家には、もう一つ大事な仕事がある。自然界ではミツバチは春になると旧女王蜂は出ていき、たくさんのお新女王蜂が誕生する。放っておくと、最初に生まれた新女王蜂が他の新女王蜂を全部殺してしまう。そのため、残りの新女王蜂を生かしてあげようと、養蜂家は群れを分割して群数を増やしていくのである。

ただ分割をしても良い群れには育たない。子供部屋を作ったり、砂糖水を与えたり、花や野菜や樹木を周りにいっぱい植えたりする。この自然と共存する生活が楽しくてならない。



ミツバチの巣と蜂蜜の様子を確認する現地スタッフ